

Q&A 集 No.2

(Q4 質問のみ) 2025 年 2 月 18 日から公開

Q4 (五霊レベルの難問) 「第 1 巻 第 2 章 7 先祖供養」では、「先祖に感謝しながら霊前に手を合わせる、墓参りをする、先祖に感謝しながら行うことはすべて先祖供養になります。」と書かれています。一方、「第 1 巻 第 7 章 6 願い・祈り」では、「神仏に向かって自分や家族や自国のことを願ってはいけません。それはなぜか？ 理由はこの行為は、周りの人々や国々の幸せに繋がっていないが故に、やがて争い・不協和・無秩序の世界を招く恐れのある反真理的行為そのもので、かつ、このような行為を続けていたのでは、己の霊格（人格）向上を全く促すことがないからです。なので、反真理的行為は本願的ほんがんできな願いが叶わないように摂理が働き、争いと混乱と不幸と悪意に満ちた現在の地上世界（家庭・学校・職場・国家）のような反真理的世界が自動的に創造されてしまいます。」と書かれ、さらに、「第 5 巻 改訂版 第 45 章 5 復活 その 4 ～三角形」でも、「成熟した時代（成就点）を迎えれば、仏壇も位牌も供物も宗教的行事も必要なくなります。なぜなら、先祖供養とは、周りの生命体を幸せにすることであると言う真理が正しく浸透するからです。つまり、先祖の成仏・銀河霊界への道案内は、霊界の銀河霊たちに委ねられ、これまで先祖供養のために使われていたお金は、たとえば、貧しい人たちや被災地の人たちの衣食住のために使われる、成熟した地上世界になるからです。さらに付け加えるならば、己の先祖の成仏・幸せを祈る行為は、霊格が全く向上しない反真理的行為で、このような祈りは反真理であるがゆえに成就しないように摂理が働くことに加え、子孫に我が家よりも周囲の家々の先祖の成仏を優先する真理的祈りを説いてこなかった責任が問われ、悲しいかな、先祖は、お尻ペン

ぺんの世界に落ちることになります。まず、周囲の家々の先祖や無縁なる霊体の成仏・幸せを祈る真理的行為の実践ができるかどうか、神仏から問われている永遠のテーマなのです。今の皆様には理解困難かも知れませんが、このような真理的実践者が大多数を占める状況にならなければ平和な世界が訪れないように真理と摂理・宇宙ができあがっているのです。」と書かれ、矛盾した内容です。

そこで、先祖に感謝しながら霊前に手を合わせたり、墓参りをしたりする行為は、真理的行為なのか、それとも反真理的行為になるのか、どちらなのでしょう？

私 この Q4 を、一種の公案、つまり「皆様が^{たかちゃん}第一霊として降誕した際、銀河霊たちから質問を受けている場面だったら何と回答しますか？」と言う公案と考えて、答えを探してみてください。

ちなみに、難度レベルは、五霊レベルの難問です。

回答（A4）は、約 3 か月後の 2025 年 6 月 1 日頃に、当ホームページ上で公開させていただきます。「頃」と表記したのは、都合によって数日うしろにずれる可能性があるからですので、ご了解くださるようお願いいたします。

なお、デリケートな問題を抱えている質問ですので、皆様に得心して頂けるよう、できるだけ根拠を示したり、具体例を加えたりして、注意を払いながら、かつ「第 1～6 巻」までに記載した文言・知識のみを使ってわかりやすく解説・回答するよう努めます。